

東京大マラソン祭り 2013 ボランティアに参加して

公益社団法人文京区シルバー人材センター 理事

人生をマラソンに喩えることがよくあります。観戦していてランナーそれぞれの取り組み方、楽しみ方が様々あるのをつくづく感じました。今回で3回目ですが、1回目は10 km地点の日比谷、2回目は35 km地点の築地、3回目は6~7 km地点の竹橋、それぞれの地点でのランナーの走り方、心の持ち方の違いもわかります。トップランナーのスピードには毎回驚き目を見張りますが、今回はまだスタートから間もない地点、まだまだ元気が満ち満ちており、余裕を持って走っている人が殆どでした。抽選の当選倍率は10倍、出走者は3万6千人、アリのように次から次へと湧いて来るランナーの数には圧倒されました。こんなにランニングを愛し、身体を動かすことに喜びを感じている人がいるのかと心から感心しました。沿道で我々の仲間が差し出した手に、ハイタッチをしながら元気をもらって走っていく姿を見ると、やっぱり応援の大切さ、必要を感じました。色々なコスチュームで身を飾り、観客を楽しませてくれるランナーの多い中で、等身大の十字架を背負ったキリストの姿をしたランナーが一番印象に残りました。人生に喩えるくらい長くつらい（楽しいと思う人もいるでしょうが）42.195 kmをただでさえ身軽で走りたいのに、余分なものを背負い走っていく姿。全ての罪を一身に背負って磔になったキリスト（わたしはキリスト教徒ではありませんが）のことを思い、どんなことを訴えようとして走っているのかなと想像し、応援の別の楽しみを味あわせてもらいました。